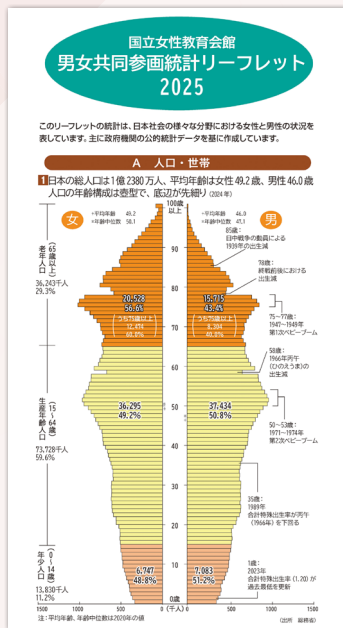


『国立女性教育会館 男女共同参画統計リーフレット2025』 を発行しました

独立行政法人国立女性教育会館



国立女性教育会館（NWEC）では、男女間の意識による偏り、男女の格差の現状やその要因、影響を統計によって把握するためにジェンダー統計の調査研究を行っています。

その一環として、人口・世帯、教育、生活時間、労働と所得、安全・社会保障、意思決定、地位指標といった日本社会の様々な分野における女性と男性の状況を示す基本データ（主として政府機関が公表した公的統計データ等）を基にした B4 三つ折りリーフレットを毎年作成しており、この度、『男女共同参画統計リーフレット 2025』を発行しました。

2025 年は、1995 年に開催された第 4 回世界女性会議（北京会議）から 30 年の節目の年です。北京会議では女性のエンパワメント（力をつけること）

に関するアジェンダ（予定表）である「行動綱領」が採択され、現在まで国際的基準となっています。世界各国は「行動綱領」を基に女性のエンパワメント、ジェンダー平等に取り組んできました。

今回のリーフレットでは、この歴史的な節目もふまえて、1995 年と最新のデータを比較できる統計を複数掲載しています。これにより、過去 30 年間の男女共同参画の進展と、依然として残る課題の両方がみえてきます。

1 4年制大学への現役進学率は女性53.1%、男性55.3% 大学院では男女間格差がさらに広がる

単位：%

	専修学校 (専門課程)		短期大学		大 学		大 学 院	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
2024年	↓19.3	↓12.2	↓5.2	↓0.7	↑53.1	↑55.3	↑6.8	↑15.5
2010年	19.0	12.8	10.6	1.1	42.5	49.1	7.1	17.4
1995年	17.3	15.9	25.0	1.8	19.2	26.9	6.1	11.0

注：↑…2023年値より増、↓…2023年値より減

（出所 文部科学省）

↑男女別大学・大学院等への現役進学率

5 男女間賃金格差は縮小傾向にあるが、女性は男性の75.8% (一般労働者の所定内給与額) (1か月あたり)

単位：千円

	1985年	1995年	2005年	2015年	2024年
女 性	145.8	206.2	222.5	242.0	↑275.3
男 性	244.6	330.0	337.8	335.1	↑363.1
男性=100	59.6	62.5	65.9	72.2	↑75.8

注：↑…2023年値より増
一般労働者…短時間労働者以外の労働者

（出所 厚生労働省）

↑男女間賃金格差の推移

現状をデータに基づき把握して、男女共同参画社会への理解・形成を進めるために、ぜひ総合的な学習や課題学習などで本リーフレットをご活用ください。ホームページには英語版やデータ出所、過去に作成したリーフレットを掲載しており、閲覧・ダウンロードが可能です。

「国立女性教育会館男女共同参画統計リーフレット 2025」はこちら

<https://www.nwec.go.jp/research/statistics.html>

